

# 最初の卒業証書～京都精華大学の友愛の精神～

石田 涼

学校法人京都精華大学理事長

1970年の3月だった。京都洛北で、卒業生数は185名という小規模だが、型破りで、高い熱量にあふれる卒業式が行われた。京都精華短期大学（京都精華大学の前身）の一期生の卒業式である。

学長の式辞はあったが、在学生の送辞も卒業生の答辞もなかった。卒業生、在学生、保護者、教職員らのなかで、話したい者が自由に登壇してマイクを握った。フィナーレでは、参加者すべてが、会場に飾られた花を一本ずつ手にとりながら、岡林信康の楽曲で知られる『友よ』を大合唱した。

卒業証書にも新しい発想が求められた。教職員と学生の幾度も話し合いの結果、卒業証書は褐色の仔牛の革に金文字が印刷されたものに決まった。美術科の教員がデザインし、後輩学生たちが一枚一枚シルクスクリーンで印刷をした。できあがった卒業証書には日英両方の言語で次のことが記されていた。

あなたが京都精華短期大学において／友愛の精神を養い／本学所定の学科目のすべて

を履修されたことを證し／あなたの前途を祝福してこの證書を贈る

This is to certify that you have taken part in the community activities of Kyoto Seika Junior College in fostering fellowship and have finished all the courses which this college requires for graduation. We present this diploma to you with our hearty congratulations. We wish you all the best for the future.

この卒業証書がユニークなのは「友愛の精神を養い」という言葉が入っているところだ。

「本学所定の学科目のすべてを履修」というくだりは一般的だが、それ以外の文言が加えられているものを少なくとも私は見たことがない。

では、「友愛の精神」とは何をあらわしているのだろうか。

初代学長である岡本清一はこう書いている。「卒業証書に『友愛の精神を養い』と記さ

れたのは、友愛ヒューマニズムの精神に満ちた自由自治の大学社会をつくるのに、あなたはよき働きをされた、ということであらわすためであった」と。

英語表記部分には「Fellowship」の語があるが、この文章では「ヒューマニズム」のルビが振られている。

岡本清一は『自由の問題』（岩波新書）と題した著書も有し、生涯を「自由」の探求にささげた政治学者であった。岡本は、京都精華（短期）大学を教員―職員―学生の三者が人格的に平等な立場で参画し、創造する共同体と位置づけ、そうした大学のあり方を「自由自治」と呼んだのである。

学生とは、学びの主体であるとともに、大学共同体の創造者であることを「友愛」の語が示している。

「友愛」は創造行為のなかで生まれる人と人とのつながりであり、人間尊重の精神（ヒューマニズム）でもある。

最初の卒業証書から50年経ったいま、卒業証書は革製ではなく、手漉きの和紙へとかわつ

ている。

しかし、大学の理念は変わらない。したがって、文言は継承され、こう記されている。

あなたは京都精華大学において／友愛の精神を養い／○○学部○○学科所定の学科目の／すべてを履修し本学を卒業されました／あなたの前途を祝福して／学士（○○）の学位を贈ります  
厳密に区分すると、所定科目を履修し学位を贈る旨を述べた部分は学位記であり、「友愛の精神を養い」は京都精華大学の固有の教育の成果を表す卒業証書にあたる。

わたしたちの大学はこの卒業証書を受け継ぐかぎり、学生たちが「友愛の精神を養う」ことを目指さなければならない。

コロナ禍においても、わたしたちの大学は多くの授業を対面で実施しているが、ディスタンスを意識しなければならぬ状況は終わることはないだろう。

そのなかで、友愛の精神を養うためにできることは何かを考え続けている。